

## 事例 16 地域が一体となったナラ枯れ防除体制構築に向けた 現地検討会の開催

(関東森林管理局 磐城森林管理署)



- 福島県双葉郡(ふたばぐん) 楡葉町(ならはまち) 芝坂(しばさか)国有林
- ナラ枯れ被害対策の現地実習の様子

ナラ枯れは、甲虫であるカシノナガキクイムシがコナラやミズナラを始めとしたブナ科樹木の樹体内に侵入し、ナラ菌が持ち込まれることにより樹木が集団で枯死する現象です。ナラ枯れ被害量については、令和2年度は急激に増加し、過去最大の被害量を記録しています。

福島県においても、近年、沿岸部で急速にナラ枯れ被害が拡大している状況にあることから、地域が一体となった防除体制の構築が求められています。

磐城森林管理署では、効果的な防除を進める上で不可欠な関係者の連携に向けて、福島県、関係市町村、林業事業者等による「ナラ枯れ被害対策検討会」を開催しました。

検討会には、関係者計64名が参加し、ナラ枯れ対策の専門家である山形大学の職員を招き、被害の特徴や防除方法の講義や「おとり丸太」、「立木くん蒸」といった具体的な防除方法の現地実習を行いました。

今後、検討会での成果を活用して、関係機関との連携を強化し、ナラ枯れ被害対策に取り組むこととしています。